

韓国の万神の占(チヨム)

藤崎康彦・李 炳男・森 雅文

はじめに

本稿の目的は、現地調査に基づき韓国の巫堂(ムーダン)の卜占・託宣の一事例を記述し報告することにある。作業の意義は以下の点にある。

韓国の巫堂の主要な活動には、神霊の憑依を受けて歌い踊る儀礼(クツ)と、巫堂やクライアントの家で行われる占(チヨム)があげられる。巫堂に関する研究は数多いが、不思議なことに、その殆どはクツに関連した現象を扱ったものであり、降神巫としての巫堂の卜占・託宣についての事例報告は少ない。一般に巫堂はクツを行う存在として認識されているが、巫堂宅を訪れる依頼者に対して行われる占も重要な位置をしめることは、他の研究者の報告からも伺える³。占を専業とする降神巫が活躍しているのも韓国巫俗の現実である⁴。占の中には韓国社会の価値観が現れているはずであり、このような事例報告から読み取れるものは多い。本稿の事例のような若い主婦の運勢占いでも、婚入先の家の問題や、それを永続させる子孫の問題が中心的話題となった。さらに韓国のシャーマン達の守護霊との関係や託宣の運び方など、他の

——一つの事例

東アジアのシャーマニズム文化と比較したときに興味深い示唆を与えてくれるであろう。

調査について

一九九一年八月と一九九二年三月に十数名の巫堂に面接インタビューを中心とする調査を行った。調査には主として徐廷範教授(慶熙大学)と共著者の三名が参加した。この一連の調査の殆どは韓国の巫堂研究者としても高名な徐教授に設定していただいた。徐教授は巫堂のライフヒストリーを文学的に記録することを通して、韓国巫俗の一面を表現することを意図しておられる⁵。李は韓国の民画研究の立場から巫堂達が表現する画像や祭壇を飾る絵画に注目しているが、現在はシャーマン自身にも関心を向け、沖繩で調査を行うなど日韓の比較考察も考えている。藤崎と森は、それぞれの視点からシャーマンが経験あるいは表現するトランス(意識の変容状態)に関心を抱いている。調査ではライフヒストリー(成巫歴)、日常的な場面でのトランスを含めた人格と神格の関係についての聞き取りと観察、祭壇構成の記録などを行った。事例は上記の調査期間の九二年三月二六日午前中、ソウル市内

の四十代前半の万神(マンシン⁷)の自宅⁸で行われた占である。このときの調査には、徐教授と共著者三名のほか、徐教授の知人の夫妻が同行した。夫は韓国の伝統的な民俗をテーマとした写真も撮ってこられた韓国人カメラマン、夫人は韓国文化全般に関心と知識が深い日本人ジャーナリストであり、その関係でお二人がともに参加して下さった。

当日は万神とその夫にインタビューを行ったが、機会があれば託宣の様子を観察したいと考えていた。万神は我々を迎えるために特別に時間を空けてくれたよう、我々以外の一般の訪問者はなかった。そこで夫人が依頼者となり、未だ旧暦の二月ということで年初の運勢占いを行ってもらったのである。

今回のような状況での占は、万神にとって日常的なルーティンとは異なるとも考えられる。しかし特定のテーマに絞ってシャーマンを観察する場合、調査者やその関係者がモデルとして依頼者になることは一つの技法としてありうる。今回はごく自然な感じのトランスを観察できたことから、この調査状況の固有の問題が事例の託宣のあり方や内容に特別な影響を及ぼしたとは、我々は判断していない。もちろん一万神の一事例をそのまま韓国巫堂の問題として一般化することはできないが、クツの分析を中心に置くことで描かれてきた巫堂と神霊との関係性を問い直す一つの糸口になればと考えている。万神の「寺」や祭壇等について詳しい記述や写真も内容に含めなかったが、紙幅の制約から割愛した写真の一部は、本誌の「眼と文化」⑬(扉ページ)に掲載したので参照していただきたい。

事例の記述について

事例の占は、その全てをVTRに記録し、帰国後に共著者三名でくり返し検討し、フィールドノートと照合して内容の詳細な把握に努めた。翻訳は、まず李が正確さに重点を置いて文字に起した後に訳出し、三名で原稿のやりとりをして不明な点の解明に努めた。また立教大学に留学中の朴原模氏(延世大学大学院)に会話部分の聴取を依頼し、朴氏と森で韓国語のニュアンスに注意を払った点検と厳密な修正を行った。この修正箇所については、さらに李が検討を加えた。

巫堂の会話部分は表現のニュアンスを伝えるために、基本的に直訳に近い表現を採用した。ただし読みやすい日本語にするために、内容上大きな差がでないところ、一部の言いよどみや感嘆詞、日本語に翻訳し難い韓国語の慣用表現などについては、著者たちの判断で適宜省略や意訳を行った。また確認の問いかけなどに対する短い相槌などの返答は、改行せずに、そのまま会話文中に()で示したものである。

会話文には助詞等に文法上不適切な表現があったが、内容把握のために必要と判断した箇所については、表記段階で修正あるいは補足を行った。指示代名詞は、身振りなどで明確に特定できた箇所限り補足あるいは言葉に置き換えた。以下の記録でMは万神、Cは依頼者、Hは依頼者の夫、Sは徐教授を示し、その前の数字は会話の整理番号である。

〈凡例〉【 】は、韓国語の意味か、もしくは文脈から特定され

た指示代名詞を示す。

() は、内容補足のための記述者の補足を示す。
 < > は、占における万神や参加者の振る舞いなどを補足する。

[] は、聴取不能あるいは困難な箇所を表し、文脈から推測できる言葉や内容を示す。

{ } は、言葉のくり返しを回数で示し、記述上の省略を行った。

『 』 は、巫歌あるいは巫歌の形式で節をつけながら万神が語った箇所を示す。

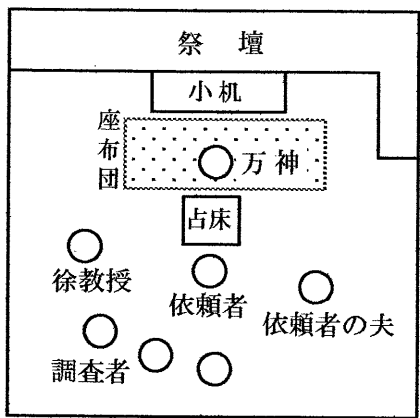
…… は、会話の中の「間」を表す。

占の事例

万神は祭壇前の経文が置かれた小机脇の占床【占いの座卓】を中央に出し、依頼者に着座するように促す。占床にはノート、二種類の念珠、扇、杯などが置かれている。万神は祭壇を背に依頼者と対面して座り、念珠を首に掛けた。万神が筆記具（右）とノート（左）を手にする間に、依頼者は卜債【賽銭】として二万ウォン札一枚をそのまま占床の上に置いた（図参照）。

万神は生年と千支の対照表を見ながら、夫の父、夫の母、夫、妻（依頼者）の順に生年月日と生まれ千支を確認する。夫妻が夫の両親の生年を正確に記憶していなかったため手間取った。万神は、一般に占は祖上【祖先】を中心に行うため、二人に両親の生年月日も記憶しておくよう注意した。なお、この冒頭のやりとりは分析に直接は影響しないと考えて省略した。

1. M…両親の誕生日は陰曆【旧曆】でいつですか？ わからな



(図) 堂内の位置関係

ければ陰曆【新曆】でも構いません、せめて月だけでも教えて下さい。

- 2. H…(父は) 一月。
- 3. M…しかし、春のようですが……。
- 4. H…一月だよ。
- 5. M…母上は夏のようなようですが……。
- 6. H…母は冬です。
- 7. M…冬？
- 8. C…義父は陽曆の二月、義母は十二月です。
- 9. M…春と冬？
- 10. H…母は陰曆の十二月だと思います。へこのあとでCが自分

の両親の生年月日を告げようとすると、万神は「(嫁の)実家は占わない」と制した。万神は夫妻の誕生日と、子供がいないことを確認しながらメモを取り、これを数秒見ながら話し始める。

11.

M…少し喧嘩しないといけませんね、二人は(C…H…苦笑)。少し喧嘩しないといけないね。二人の生活のなかで、

妻が偉いとか、夫が偉いとか、女だから負けまいとする、男だから負けまいとする (C…笑い)。なぜ両親について

尋ねるのかというと、父上よりも母上に良くしてあげないといけない、姑【夫の母】にね。姑の【主方または呪力】で生きているよ、この家は。舅【夫の父】は東西南北に遊

覧しなさいということだから、百八の家で施主をして、二百の家に行つて人間を救済しなさいという(運命の)父上です。そのためにお金もなく、子孫もないのです。要点だけを言いますよ (C…はい)。姑は実家の業を持って生まれたので、神霊様が業を背負わせたということですから、祖上の中に。それでこの家は必ず「不幸」が、業がある。姑が実家から業を背負って婚家に来たので、今まで、このくらいでもご飯を食べて暮らしてこれた。父上よりも母上の徳が大きいのです。だから、息子さんはよく聞いて、母上に良くして下さいね。そして四十代までは苦労もたくさんした方です。言えないほどの苦労をたくさんした方です。だから腹が空くというよりも、心の苦労を多くした方です。だから両親に良くしなさいというのです。そして、あなた

【C】の夫を見ると、東西南北に遊覧しなければならぬ

ので……、四柱【生まれた年月日や時間など運命を見る四つの基本】が今出ているんですが…… (C…ええ)。東西南北に遊覧に行つて、お前【H】も生まれるときに、人間の救済をしなさいという生まれだから、人間の苦労も多く風波も多く、お前たちが偉いから良い暮らしをしているのではなく、祖上が、三代(前の)のお婆さんが、お婆さんがお前の背中に乗って(守って)いる。(Hの)寿命が2〜3回も続いたのだと言います。死ぬような危ないところを何回も無事に過ごしたのです。三才頃……九才から大きくなるまで、何回も死ぬところを、体が痛かったこととか、多くの怪我をしても引き上げるし、水に行つても、例えば落ちたときに引き上げてくれたということです。(次第に語調を強めて)死にかけたような危ないときは……祖上三代のお婆さん、いわば父上の母上の母上の母上、だから祖上三代のお婆さんになるのよ！ その人は普通の人ではなく、昔々高い山は高く登り低い山は低く登つたりした¹お婆さんがいらつしたので、その方が七星殿²に発現するし、この家は子孫が少ないといえ少ないし、多いといえ多いという家です。孫が多い家ではない、子孫が多い家ではない。孫が少ないのだよ、(Cの)婚家がね。それで、(一瞬ノートを見てから、宙を見るようなしぐさをとりながら、数えるように)今年一月、二月、三月、四月になると、四月を気を付ければ、四月中旬さえ過ぎれば……五月になるとどこか外国の風が吹き【外国に行き】ながら、五月になると文書一つ得ることになりますから、その文書を見逃さ

ないで下さい、ということですが……。

- 今、四柱を出しているのよ……。そして東西南北に遊覧に行つて、千の人間を救済しなさい。そうしないと、お前【H】が千の人間から高く見上げられ、万の人間から高い場所でお前が仰ぎ見られて、指示をする人なのに、父母との出会いがよくなかったので、私が恨歎【ため息をついて歎く】と言っているよ。(Hの)体はあんなに太つて、体はそんなに健康そうに見えるけど、見た目は良いが健康ではないね。夜昼、胸はどきどきするし、夜昼、体は重くだるくて元気がなく、天地が嫌になるとお金をたくさんあげても嫌で、自分が嫌だと思えば百万長者も羨ましくくない、自分が嫌と思つたときは、へ仰向けに寝るしぐさをしながら横になれば直性が解ける【満足して機嫌が直る】人です。そうでしょ？、そうじゃないの？へ次第に万神は早口になり、身ぶりも大きく、まくし立てるように話す。Cは相槌を打ちながら万神の話の聞く。HへHは万神にカメラを向けながら¹⁶はい、たしかに。Sへふざけてならば、どうしたら体が瘦せられる？Mへ体は瘦せませんへ一同笑い。そして菩薩も、この人【C】も菩薩ですよ。四柱が菩薩で……。お前【C】も昔々この世に生まれる前に天上天女であつたため、仙女として下降【俗世に現身】して、お前も玉皇上帝の仕事で、聖神として召されて、へ急に両肩を大きく震わせてへ両肩に匕首【短剣】の「覇氣」を受けると言われている。そのため人間苦勞が多く、神様の風波が多い。どうしてあな

た方には子孫がないのか。サムシン殿でサムシン・ハルモニ【三神婆】⁷が背を向けているので、お前たちは子供を待つても三年は子息がないのだろうと言います。それで七星殿に行つて、へ一瞬、臉を閉じて思い浮かべるしぐさをしながら、どれほど寺に行くと、どこに行つても、どこに行つても、お前は他人を敬つて、お前は七星にたくさん祈らないといけないと言います。実家に……。婚家の方も根が強い【因縁が強い】ですが、実家の根が……。普通の方がいませぬね。大臣がいて、昔々根が強い大臣が、押さえて押さえて押さえて押さえたので、お前たちの兄弟には、なにもうまく行くものがないんだよ。一つも良くなるものがない。お前の家は、なにもうまく行くものがない。世の中に名を出すような人もないし、子孫たちが他人に自分の家を自慢するものが何もない。なぜなら、祖上から昔々の実家を見れば、へ脇の宙を見るしぐさ、実家の父上の母上、父上から見れば父上の母上、だから曾祖母にあたる人！曾祖母、祖父が道士ハラボジ【爺】として名牌【名札】を持って降りる人がいるので、この家は学者の家系です。普通の家(家系)ではありません。四柱を見ると、百八の念珠を首にかけて、名山大川を探して、「玉珠」精誠を捧げて、扇を持って踊り舞う四柱八字【運命】か、へCを強く指し示しながら、妓生【キーセン】八字だという話だよ！へ端語氣を和らげてへ氣分を悪さないで下さいね。へ再び強めてへ妓生八字になり、人間苦勞が多く、神の風波が多く、お前は百年の配匹【夫婦・つれ合い】を得たが、百年

の配匹ができなかつたら、恨が悲しいと言っていますよ。

なぜなら、百年偕老するのが難しいのです。だから、人間苦勞が多く、神の風波が多く、二人は喧嘩が多く、毎日お前が良くやった私が良くやった、上に立つことが、私が女だから上に立ちお前が男だから上に立ち、男子だから負けたくないし女性だから負けたくない。この家は二人とも似ていて、秤にかけると一つも違わないと言います。それでは、今から祖上を呼ぶので、誰が来るのかよく見て下さい（C：頷く）。

〔女神は、筆記具とノートを占床に置いて、半開きの扇を右手に持って立ち上がる。祭壇に向き直ってから、目を閉じて、時折扇をばたつかせながら、眉間にしわを寄せた緊張した表情で巫歌を唄う。〕

15. M：『天地神明、日月星辰、玉皇上帝、河回動山明るく、

〔聴取不能〕、河回山明るく、玉皇上帝、仏士ハルモニ
【婆】、天地神明、日月星辰、龍宮大臣、聖王大臣、大臣ハルモニ、観世音南無阿彌、へゆつくりと依頼者の方に向き直り〕日月星辰奉請、南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏（右手を強く縦に振って扇を一気に開く）、故郷はどこですか？お父さん【H】？

H：江原道です。

17. 16. M：そうですね。南無一心。私が今、説明しながら占いますね。はじめに南無一心奉請を探す方は、（韓国の下の方

では全羅道、慶尚道、江原道、どこの地かと言えば以北の地。次は、故郷に行っている人は、先に神將様を捜します。

必ず神將を先に、南無一心奉請するのは、神將を捜すのです。この家系は將軍神様が強く、山神が強いという意味で、お前の祖上が南無一心奉請を捜しており、阿彌陀仏を捜す方は、昔々に自分の祖上が仏事が強かった家系は阿彌陀仏を捜して、観世音菩薩を捜してきますよ、わかりますか？

今、私が解釈をしながら、私が占いますよ。『再び扇をばたつかせて』南無一心奉請、南無阿彌陀仏、私の子孫よ、私の子供たちよ、（再びCの前に座り）私が来れば来たことがわかるか？ 私が帰れば帰ったことがわかるか？ ここに来い、私の孫よ、黄金の一片のような私の孫よ、玉のような私の孫よ、お前たちは私が来て話をしても見る事ができない。私が来て頭を撫でも、お婆さんが来たことがわからないだろう。可哀相で可憐だ、私の孫が可哀相で可憐だ、私の孫が可哀相で可憐だ。（左手に念珠を持ち、ゆつくりと一玉ずつ回しながら）私が私の子孫を見渡すと百八念珠を首にかけて、『一瞬間に戻り、Cに』舅ですよ、『再び緊張した表情で』名山大川を捜し求め、両手には木鐸を持つという四柱八字を持って生まれ、お前の姑（は）苦勞した。独守空房、一人で横になっても眠れなかった時節（が）多かった。可哀相なお前たちの姑（に）よくして、よくしなさい。心配しないで待ちなさい、今年中に私がお前たち二人の間に玉童子を一人をお前の胸に抱かせてあげる。私が誰かわかるか？、お前たち。この婚家のお婆さん、祖上であり、昔々私は高い山を高く登り低い山を低く登り、水を見てお辞儀をし山を見てお辞儀をし、私が住んでいた

江原道の金剛山の紐を繋いでもらい【氣を受け継いで】、天神靈が助けてくれたので私は子孫（を）産んだが、お前たちの姑は愚かで愚かで愚かだ。どうしてだ、私が信じていた縁はどこに捨てたのか。今となっては、これもなくあれもないのか。祖上様たちの顔に「聴取不能」する祖上（が）いる。子孫として占授する【神靈が子供を授ける】には、あなたが目覚めるとき、お前たち二人の間に子孫を占授してあげるから、そのように理解して待ちなさい。我が孫子を見渡すと、人目には良いが、シベリヤ杏の【外見だけで中身が伴わないという意の慣用表現】身の上だ。体はそのように良いが、中は悪い病気になるか心配なので、健康に氣をつけなければならぬ。お前が、外見は健康なのに、痛いところが多く、ときには寒さで寒気がしたり、ときにはお前（は）両肩を押さえて、億万の金を載せたように体が重くなり、ときにはお前のぞくぞく熱が出たりする症状、私が行き来するから。そして、お前の八字を見渡すと、東西南北を遊覧して、東と北に、南と西に廻り歩くヨンマッサル【因縁】がかかる。一カ所に定着できないお前なんだ。またお前（を）見渡すと、見きわめると、初福には人間苦勞多く、神の風波多くあるが、そのまま四十を過ぎるにつれて、お前の四柱も百年借老するには、氣性の強い（者同士）夫婦は離別しやすいので、姉のような人と出会うべき、一度離婚した人と出会うべき、百年借老することが。お前たちはうまく出会ったが、神の許可を得ないといけない。祖上の合議受ければ、お前たち二人は

「聴取不能」をしないので、そう理解して。

また見渡せば、孫嫁を見渡せば、お前は生まれる時にへその緒を巻いて生まれ出て、供糸【神靈との運命的な結びつき】「を持って」出て立ったので、お前は人間苦勞（が）多い。ときには弟のようで、ときには友達であり、ときには旦那さん（のようだ）と言うが、むかむかして嫌な気持ちになると、今日も止めて逃げ帰りたい心境だが、その気分もその場限りではないのか？ 私が助けてあげるから、心配するな。お金はあるときにはあっても、ないときにはないので、心配せずに待てば、来年を見ても、今年七月、八月、九月を見渡すと、今年には運の運があって、人間運もあるよ。子孫運もあるよ、事業運もあるから心配せずに待って、一月、二月、三・四月だけ、氣をつければ良くなって。お前も見渡せば、妓生八字であるから、このようなどころに足を踏み入れて、神経を使って、そのようなところで精誠をつくし、ある時には涙も流すよ。寂しいよ。兄弟がいても何にもならないし、お前が、父母がいても何にもならない。あなたはチマを履いているから女だが、女ではないので、男丈夫【立派な男】になって、外内の仕事を全てこなすような四柱なので、これから四十過ぎれば『二人（とも）大丈夫よ……。（巫歌の際の眉間にしわを寄せた少し虚ろな表情が、一瞬にして元に戻った。）』お前は少し苦勞をするべき。二人とも【神管轄】だから、二人がよく喧嘩するのも、こうしたことは全て【神管轄】だからです、（笑顔で）わかりましたか？

19. 18. C…はい。

M…〈右手を上に掲げて扇をばたつかせてから、再び厳しい表情になって、身を乗り出しながら〉弟とか、イトコとか、兄弟姉妹の中で死んだ人は誰？

C…イトコです。

21. 20. M…イトコですね、イトコの霊が今入りますよ。イトコが、

(嫁の)実家から男が入ってきて、婚家ではお父さんの兄弟とか、伯父【父の兄】とか、叔父【父の弟】とか、亡くなった方、出かけて亡くなった方(は)いますか？ いますか？

22. H…客死？(M…はい)。おります。

23. M…客死した方が入りますよ、若い人が、出かけて亡くなった方。

24. H…家ではなく……(M…そうですね)、客死ですか？……
M…はい。伯父【父の兄】です。

25. M…伯父ね。お父さんの兄弟というのを見たら、入ってくることを見たら……〈扇をばたつかせてから右首脇にそえる動作。首をやや傾けてしなを作る。急に声が裏返り、大きな身ぶりを交えて話す。子供霊が憑依した、アイゴー【哀号】、なぜにこんなに老婆さんの胸が痛むの？ 昔、これ、おじさん【H】の家に、老婆さんが、上(先代)の老婆さんが、大きな壺に業を祀っていて、山が険しい地方であり急流のある地方だけど、(上)の老婆さんはそうしたのに)なぜ老婆さんはそのようにしないの？ 曾婆さんは大きなもの、大きな壺にお米を持ってきて、これに入れて、

至誠で祈った老婆さんがいらっしやるけど、そして水を見てお辞儀をし、山を見てお辞儀をし、高い山(を)高く登り低い山(を)低く登った、念じる老婆さんがいらっしやるけど、どうして、お母ちゃんはそうしないのか、わからない。これでもないし、あれでもない。老婆さんはそうでしょう？ これでもないし、あれでもない。仏教でもないし、教会でもないし、無神論者……。何とかなるのかなあ……。〈いじけたようなしぐさを見せながら〉今までより、もっと厳しい生活があるのかな【いや、それははないという意の反語表現】。やれやれ。〈Hを見て〉その口だけは連者だね。

アイゴー、このお母ちゃんはね、このお母さんは、菩薩の家【巫堂の寺】に行つて、このお兄ちゃん【H】を子供のとときに、売らなければいけなかったの。だから、老婆さんが売ることになったのよ。お寺に売ることになったよ。七星殿に念じて産んだ家だよ。そのようにしたので、たくさんたくさんこのようにとこに詣でながら、たくさん来て、七星供【七星への供物】をたくさん捧げないといけない。龍神祈禱(を)たくさんしないといけないよ。このお兄ちゃんのために、放生もたくさんしてあげてね。このお兄ちゃんは先生【S】が見れば健康に見えるが、健康ではないよ。

26. S…でも、このような巫俗に関心を持って、たくさん写真も撮ったりしてますよ。

27. M…そうですね。だから今はこんなに良くなったのよ。そうしな

かったら、ほかのもの、これもないし、お母ちゃんのように……、そうするとおじさん【H】痛イ痛イして、横になって病むんだよ。だから、巫俗に足を運ぶのも自分の「意志」ではなく、なにか先代のお婆さんが連れて回っているんだよ。

28. S…お婆さんが？

M…うん。そして、たまに熱を出したり、そんなふうには首が凝ったりして、熱が出るんです。それ、お婆さんがそうさせているんだよ。お婆さんがそうさせて、おじさん【H】の伯父（父の兄）がそうさせて、青天に【若くして】死んだので怨も多いから、目をギロツと開けているよ。そして浮かばれないんだよ。そのためにうまく行くものがないんだよ。ほかに、家に、おじさん【H】の家で何かうまく行ったものありましたか？、なかったでしょう。そしてお母ちゃんがそうするように、これして、祖上神を祀りながら、たくさんたくさん七屋敷で祈らないといけないのに、そうしないのね。これでもないし、全然、酒に水を水に入れたようだから【やっても無駄なことをするという意味の慣用表現】。そうして暮らしているのよ。むしろお父さんが良いのね、お父さんが関心を持っているんだね。それも家の祖上のための祭事【法事】をすることに神経を使っているよ。そうでしょう？、違う？

29. H…お母さんはもつとやっていますか？……。

30. M…いいえ！ 法事を行うことだよ、そりゃあ、もちろん女が（実際的なことは）しますよ。でも、（意識として）自

分の祖上を祀ることですよ。お父さんが頭の中では氣を使っている。お誕生日はわからないけれど、お父さんは道人には見えないけれど、道人なんです。夢を見るとよく当たるよ。そしてお母ちゃん【C】も夢を見ると、今日は東にいくと言ったら……、ある家に云々すると……、私が行きたくなければ行かないし、私が行きたいと思ったら……行けば徳を得ますよ。お母ちゃんも菩薩と違います。自分が、こんな（巫堂の）世界を良くわかっているの、これも信じないし、あれも信じないし、酒に水を入れたように、水に水を入れたようにしているのよ。そして、これ、これ、お母ちゃんの家にも、アイゴー、どうして、そんなにお父さんとお母ちゃんと、一緒に住んでいるの？ アイゴー、チジゴニポツコニ【2回】【夫婦仲が良いという意の慣用表現】、子供のために住んでいるんだね。アイゴー……。それはともかく、お母ちゃん【C】、お母ちゃんは、一月二月三月【2回】、陰曆の来月にどこへ行くのかな？

32. C…（まだ）はっきりはしていませんが……。

33. M…今、考えているの？

34. C…私？

35. M…うん。行くよ、行くよ。偶然に行くようになる。今、あなたが行くかどうか、行くかどうか……、片足は踏み出して、片足は踏みとどまっているけど……。三月に行くことになりました。行って、すぐ戻る。すぐ戻って、その次の月にまた行くことになる（C…頷く）。うん、3回言ったり

来たりするけど、3回目に行けば良いことがある。3回目に行けば良いことがある。

C…3回目ですか？

36. M…今、はじめに行く、最初に行くときは状況に流されて…

…うん、流されて、2回目に行くのは廉探【諜報】何か、探偵か何か…。

S…情報を得ること？

38. M…うん、うん。3回目に行けば、だれか貴人一人と会って…

…そうすると男子の貴人（に）会うのではない。へHに向かつて）喧嘩しないでよ（一同笑い）。貴人一人に会って、良い知らせを聞いてきて、良いことがある。そして、お母ちゃん【C】赤ちゃん産みたいでしょ？

40. C…へ一瞬つまってから頷く、はい。

41. M…赤ちゃん待ってるよ。私が赤ちゃん（を）一人あげようか、ん？（C…ええ）。本当よ。私（は）嘘言わない。七月、八月になると、偶然じゃなくて、お腹がむかつくときがあるから、その時は妊娠したと思って。そのかわり、三神ハルモニに祈禱をしないといけないよ（C…ええ）。わかる？ わからない？（C…頷く）。少しだけでも、三神ハルモニに、これに祈禱しないとダメです。わかりましたか？

そのようにして、三神ハルモニ受け入れて、今年中に、今年にできて（妊娠して）、七・八月にできて、来年に産まねばならない。そうしたら私が男の子（を）産むようにしてあげる。²⁴

42. C…男の子を？ ……。

M…うん。最初、男の子を産むようにね。へHに向かつて）

そうしたら、その次にまた産まなくてもいいじゃない。子供なんて要るものかなどとは考えないでね（一同、Hを見て笑う）。まあ、私にあなたの心がわからないとも思っているの？ 二人で生きれば良い？、まあ、ひどい。子供はなくても構わない？、ひどいね、ばかみたい、歳（を）もっと取りなさい、（そうしたら）子供子供と言うからね。

お母ちゃん【Cが】もしかすると子供生んでから、他の人（男）に逃げると思ってるの？、ひどい、結婚もしなくてなどなど…アイゴー（2回）…（独り言のように）産むだけ…、（声が元に戻り）頭の中ではそうですけど…、私が頭の中に入って見たからわかるのよ！（恐縮するHを見て）どういたしまして。どれほど、このように暮らしているけれど、夫婦の因縁が合って五百歳（2回）、五百歳して千の、このような因縁が在ったから夫婦が出会うのだが、それがむやみに離れたり、むやみに止めたり、むやみになど…（へHに向かつて）そうすると、おじさん【H】、心通りにそうなくても構わないの？ お婆さんがぎゅっと摺んでいたら、できないよ。そして子供は要らないなんて話ほしないでね、子供、産むように神経を使ってね、わかりましたか？ 今まで、あまり神経使っていないよね。私が知らないと思うの？ 子供を産んでどうしようなんて話はどうするな、（睨みながら）叱るよ。〈会話の途中で再び子供霊が憑依したときのように〉

が、明確な転換点は判断し難い

44. H…〈苦笑して〉はい、わかりました。

45. M…それと、なぜ、ときどき、わざわざ外で頭にきた事を、家に帰って顔に出すのよ？

46. H…〈とぼけながら〉よくわかりませんね。

47. M…〈身を乗り出してHを叩こうとする素振り、Cに向かつて〉お母ちゃん(C…はい)。(Hが)外で仕事(して)頭

48. C…〈笑いながら〉はい、わかりました。

49. M…外に出かけてしたことは、外に出かけて処理しなさいと言っておくからね。ときどき、変になるね、頭にきておかし

50. S…メメ〈戯けてたしなめた〉。

51. M…そうでしょう。大人は、男達は皆そうだ。そして、お母ちゃん【C】、お母ちゃん、〈順番に数えて〉一月、二月、

三月(に)行ってきて、四月、五月中には良いことがあるから、そう思っていないさい。今、お母ちゃんが、一つ、お父ちゃんと議論して口論して、なにか考えていることがあるね。それがうまく行くかどうか？(C…ええ)。(Cの顔を伺いながら)うまく行くかどうか、それについて、今日、もう一つ、うん、聞いて見るかな(聞いてみたいのではありません)？ 自業自得になるよ。うまく行くようにしてあげ

52. C…うまく行くようにして下さい。

53. M…それが、うまく行くことで、お母ちゃん【C】とお父

ちゃん【H】が、暮らし向きがよくあります。それがうまく行かないと、他の人の手足を借りなければならぬよ。

それがうまく行けば、他の人のものでも借りて、うまく行けば、それで良くなれる。それが良くなれば、祖上の前に

祭事なども少しして、供えなども少し捧げなさい。(再び常態の話し方に戻り)そして、運を入れてあげろ！(命令表現)。おじさん【H】は運が向いてきて、そして、お母

ちゃんは七月、八月に入って運がある(C…頷く)。わかりましたか？『肩間にしわをよせて巫歌に入る』一月二月、(が)入れば…、犬肉(は)食べないでね、おじさん

54. H…私、犬肉は食べないよ。

55. M…そう、犬肉は食べるなよ。〈子供霊が憑依したときのような声になり〉犬肉食べたらダメよ…、本当に！

56. H…食べないよ、犬肉は(M…なに?)。本当に食べないってば。

57. M…そして他のお姉さんたち【女性】に目をそらすなよ！

58. H…飛ばすからね！

59. H…〈恐縮して、苦笑しながら〉はい、わかりました。M…喧嘩を防ぐために私が言うのだから…(H…〈苦笑して〉はい、わかりました)。何か食べてはいけない食べ物

を食べて帰り、食べないものを食べて帰り、入ってはいけないものが入り、行っては行けないところに行ってきた。喪門【不吉】がついているし、初喪【葬式】のところ

行ってきたので喪門がついている。また(それまで)置いてなかった物(が)お母ちゃんの家にも、何か物が入ってきた。客がいた日(に)物が入ってきたと言うよ。

H.. 私たちの家ですか。

61. 60. M.. うん。なにか喪家【葬式のあった家】に行つて、なにか持つてきた物ある？

62. H.. 喪家に行つたことはありませんよ。

63. M.. 必ずしも、最近行つたという話ではないよ。

64. H.. えーと(M.. うん)……その前に……私の場合、4年前

65. M.. いいえ！ そужゃなくて！ 誰か初喪の家に行つてきたか、誰か友人の中で門喪【葬儀】に行つてきたとか、誰か初喪に行つた人が家に来て、喪門がついたのよ。

H.. それはわかりませんね。

67. 66. M.. お母ちゃん【C】は行つてない？(C.. ええ)。去年秋頃を考えてごらん。今年じゃなくて、去年で、秋を考えてごらん。

68. S.. 喪家に行つたこと、ないの？

69. H.. 喪家……昨年、私たちの伯母(父の兄の妻)が亡くなりましたが。

70. M.. それは違わない？(まさにそのことでしょー)へたしなめられて困惑するHを見てCが笑う)

71. H.. 伯母は私たちの親戚ですが……。

72. M.. 親戚ならば鬼神にならないとでもいうの？(H.. 苦笑。なぜ嘘をつこうとするの？ 私がお爺さん【S】に叱られちゃうじゃないの。

73. H.. (体を丸めて)いいえ、ごめんさい。

74. M.. 喪門が入つてから、喪門を追い払わないといけない。喪門を追い払わないといけない……、物がお母ちゃんの家

の部屋にある。お母ちゃんの家に入れば、(あたかも万神がそこに行つたかのように、身振りでも示しながら)こち【右側】に置いてあるものないの？(C/H.. はい)。

新しい物、入つた物がある。木でできているものね(C/H.. はい)。木神が入つてきた。お母ちゃんの家にも、このように入れば、このように入れば、こちち【右側】に木(が)入つてきた(C/H.. はい)。それが入つてからお母ちゃん【C】も痛い痛い、少ししてあれ【H】も痛い痛い、少しして二人が喧嘩したこともあった。その日、喪【葬儀】(が)ある日(に)入れてはいけない物(が)入つてきて、そこに置いたからそうだった。

75. C.. どこに置けばよいのですか？

76. M.. すでに入つてしまったものは、(悪い影響を)解かないと駄目なの！ どこに置いてもしようがない！ 木、木神

悪いものが入れば、人が死ぬこともあるのよ、わかる？(息を静めるように目を閉じて、思い浮かべるようになしぐさ。ため息。Hを見る。声が裏返り)誰がこのように頭が

痛いのか？ お婆さんが、おじさん【H】の家のお母ちゃん【Hの母】は頭がたくさん痛いね、痛い痛いしている。健康ではなく痛い痛いしている。(大きな動作もなくすぐに巫歌に入る。これ以後の巫歌は自分で何かを思い浮かべるためのように月を数え歌うもので、朗々と相手に歌い上げ

るものではない。CやHに話しかけるときは元に戻る

『一月、二月(9回)』二月初めに、今日は、二七日だから、二月初めに何か、入ったものがあるよ。どこ行ってきたの。二月初めに、家庭に変化があるよ。

77. H:二月はじめ? 陰曆ですか?(M:はい)。すると一ヶ月前ですか? 何日前ですか?

78. M:今は二月ですよ、二月も晦日になりましたから、二月初めとか、正月晦日あたりに……。

79. H:物が……入ってきた物があるんですか?

80. M:何か入ってきた物があるの?、家庭に変化はあったの? H:家庭内の変化といえば、私たちが物の置場所を変えました。それに最近、私が職場を辞めたので荷物を(家に)移しました。

82. M:そうでしょう(H:はい)。そうでしょう(H:はい)。

今、家庭に変化が起こっています。おじさん【H】、職場とか、何々とか、家庭に変化がありました。『一月、二月(2回)、三月(3回)』、三月中旬にどこに旅立つかわからない、『三月中旬に(2回)』飛行機に乗りますね(C:頷く)。気をつけて下さい。そのとき、最初に行ったときは特にはないが、2、3回、行ってこないといけません。『一月、二月、三月中旬を見渡すと、アー(3回)』、外国の風が吹くと言います(2回)。他国の風が吹くと言います。『他国(の)風吹けば、何も所得はないが、行けば千金を払っても買えない、万金を払っても買えない』経験をしてくるよ。理由がわかりますから、そのようにして『三

月、四月(4回)、四月初め(3回)、四月、四月初めには』五日、六日、十日、十五日の間におじさん【H】に何か変化が起こりますよ。職を得たり(2回)、どこか、なにか事務室を出すとか、なにか変化がありますよ。見て下さい。四月に、五月、四月と五月、五月(2回)、五月になると金銭、お母ちゃん【C】に金銭運が入ってくると言います。金銭(が)入る運が入りますよ。六月、七月(2回)、七月八月(4回)、人間運があると言いますから、ひよっとすると三神(運)があるかもしれないですね。そう、七月に。七月、八月、九月(7回)、秋になって、今は皆(お互いに)知り合いの方々ですが、結婚式は正式にやりましたか?(C:ええ)。やりましたか?(C:ええ)。沙帽冠帯をきちんと被りましたか?(C:ええ)。だから、五月、六月、七月、八月、九月(5回)、九月には人間文書を取れと言いますが、もしかすると同僚が家に来たり、誰か知人が来たり、あるいは父母の、父母のように、誰か人間が増えたり、とにかく人間を増やさないと言いますよ。人間がそのように、家のなかに、九月に、十月(2回)、十月になると、引越するとか(2回)、あるいは家文書を取ると言いますよ。(家族を)増やすとか、引越し運がありますよ。城主運が入るとい話です。今年秋に、そのような計画はないのですか? 偶然ではない、そのような計画を感じますよ。だから、そのときになれば、なにか当てはまるものがあります。当たりますよ。これですね。これですね。十月からはお母ちゃん【C】が、七月

から、七月が過ぎるとお母ちゃんがよくなるよ。そして三月からはおじさん【H】が大丈夫ですよ。ただし一つ気をつけるべきことは、他人の話をよく聞いてしまふね。うん、他人の話をよく聞いてしまふね。耳が薄くて、話をよく聞いてしまうから（2回）、自分に利益になるものは、もし十の利益になること（があれば、手に入るのは）三つくらいしかなく、七つは失うことが多いのよ。それから朴氏に……朴氏、呉氏……（少し首をひねって）鄭氏？……この三人と知り合いになるときは少し距離感を持って、少し自分が……二つの話を聞くとすれば一つだけを聞くようにという話ですよ。はっきりと姓を……そのようにして挙げましたからね、そのようにして下さい。この三人のこと、何というか、うーん、少し私【H】に十の話を、私があれば、私が聞いてあげるべきことは、その中で三分の一だけを聞いてあげるべきですね。そうすれば、私に損害がないのよ。そして今から、少し、少し、少しよくなりますから、あれして、三神殿に折って喪門を敝うべきですよ。（右手に持っていた扇を占床に置いて）喪門は何かといえど、家のなかで、誰かが亡くなったでしょう？、昨年に。その方が私の家で浮かばれなかったので、あの世にいけなくてそのまま家に留まっているから「成仏」させてあげて下さいという話ですよ。そのようにすれば、万事が大丈夫ですよ。今年は大丈夫ですから、お母ちゃん少し、体が少し痛くなるよ。だから気をつけて下さい。そうすれば大丈夫ですよ。（手を伸ばして、占床上の養錢を祭壇に供え直し

ながら）喪門を取り除くべきよ。（笑顔で）当たってますか？ よろしいですか？

83. H…はい、結構です。

84. M…（穏やかに、笑いながらHに）一人で来たのなら、もっと叱りたかったのよ。（H…私ですか？。二人で来たからアギシ【子供、幼児】が適当にやり過ぎたのよ。他の人（が）一人で来たなら、アギシがしつこく言うところだけだね。近くに寄せて座りながら（問題を）ふるい分けたのにな。）

85. C…ありがとうございます。

86. H…ありがとうございます。

87. M…（占床を脇に退ける。これまでの緊張感に満ちた態度から一転して、穏やかに微笑みながら）何か聞きたいことあれば、聞いて下さいね。出なかったことか、知りたいことがあれば、聞きたいことがあれば。

88. H…あと聞きたいのは……昨年、陽曆十二月一日に結婚したのですが、私たちの生活……計画したことがあるので、もっと良くなればと……体が痛いのは治せばいいのですか？

89. M…喪門が入っているから、より痛いです。

90. H…体は治せばよいので……あとは家のことが、万事うまく行けばよいのです。

91. M…もちろん家が良くなればよいのですが、この家にも神管轄があるので何事もうまく行かないのです。うまく行ききうで（2回）、手に入れそうで、取れそうで、取れない。

そうではないですか？

92. H…けれど、私はそんなに欲は張らないけど……。

93. M…だから他人の話をよく聞いてしまうのよ！ 毎日毎日。

94. H…欲を張らずに、食べてゆくの支障なく、やりたいことを少しづつしてゆけばよいと思っています。

95. M…ところが、今二人が考えていることがありますが……それはうまく行くべきですね……うまく行くべきだが……うん、うまく行きそうですかね。

96. C…うまく行きますか？

M…(頷いて) だから、お母さんが痛いのは喪門が入っているから、より痛むのよ。その神が浮かばれないという話ですよ。その昨年亡くなった方のための道をきちんとしてあげなかったという話ですよ。それをしてあげるべき。お母さんの痛いのも治るし、家が平安になります。この喪門が入って、とても良くありませんよ。そして、お父さんに三災が出て(2回)、だから三災が出ながら人間を打ちのめせと言いますよ。そして運命学によってその方が死んだので、家の直系の家族ではなく身内ですが、良くないですよ、直系ではない人が死んだので、その後(父の悪い)運が離れました。そうでなかったら、お父さんが去年良くなかったのよ。だから、一月、二月、三月、四月、四月にはおじさん【H】(に) 気をつけてと話しましたね。なぜなら行き来しながら、あるいは人の運というものがあります……。あれ、車のようなもの、できるだけ気をつけて下さい。何か、お酒は、何か、(Hを) 見ると、別にあれで

すけれど。しかし、人の運というものは、悪いのはどうしても悪いので……。

98. H…私は……車を四年以上運転しています……(M…はい、四月には気をつけて下さい)……ところが、この頃急に車を運転するのが嫌になったんです。

99. M…はい、四月ですよ。それは三月晦日から四月初め、そのときは気をつけるべきね。なぜなら、偶然ではなく、自分が出たのではなく、車で一人が血を流しているのが、(右手で身振りをそえながら) さつとよぎったので、これを気をつけて下さいと言うことです。そして、喪門が入ってくると家がうるさくなります。喪門を祓って動法【崇り】を解いて下さい。

100. H…(言い間違えて) ドンポップ？

101. M…トンポップです。この木が入ってきて、木の木神、木の動法が入ってきたと言いますよ。だから客が来た日、これ【客】についてくる木神だと言いますよ。一緒にそういうものが入ってきて、良くないと人が死ぬこともありませう。それくらい恐ろしいものです。そのようなもの「だから、人々は巫堂の家で占ったり崇りを解きに來たりする。」

102. H…解くべきですね……。

103. S…やれやれ、ご苦労様でした。

104. C/H…ありがとうございました。

〔万神は立ち上がり、祭壇に一礼して部屋を出る。〕

若千の整理

我々がこの万神に最初に会ったのは、一九九二年ソウルで開催された第一回国際シャーマニズム学会のレセプションである。その席で行われたクツにおいて、彼女はリーダー的存在として他の巫堂達とともに華麗な舞を披露してくれた。調査当日のインタビュ어나その後の昼食時の立ち居振る舞いからも、我々は明朗で快活な女性という印象を受けた。

この万神が語った成巫歴を簡単に紹介しておく。23歳頃から体調を崩し、それまで熱心に通っていたカトリック教会から足が遠のく。幼少時より将来は神がつくと言われており、35歳で原因不明の病いを患う。同時期に現在の夫と知り合い、39歳の1月に結婚した。その5月にある巫堂の寺を訪れたときに神霊の憑依を受けたことを契機に、北漢山でネリム・クツを行った。

この万神は、韓国の伝統音楽(パンソリ)²⁹や舞踊を勉強しており、その影響が巫歌に感じられる。現在用いる経文は、ほかの巫堂から伝えられたものや仏教の経文を参考に創作したという。祭壇等も神託に従って配置したもので、神に仕える万神としての独自性を持つことが重要だと主張した³⁰。万神の体主(モムジュ)³¹神については、他界した父が病氣治療や祖先占いを行い、4人の子供神が運勢を占うと述べている。当日のインタビュ어나の合間には子供神が万神に憑依して徐教授を占い、託宣を下す場面があった。このときの詳細は別稿に譲るが、事例の占で見られた子供霊の憑依と類似した表情やしぐさが観察された。

調査の最初には、徐教授から万神に参加者が紹介されたが、占

で展開されたような依頼者夫妻のプライベートについて特別な言及はなかったと記憶している³³。占の内容上の矛盾・齟齬は、基本的に万神の発言そのままである。これらの内容の解釈も含めて資料からは多くの問題が読みとれると考えるが、今回は万神のトランス表現にポイントを絞って整理した。ここでは万神の発言内容と観察から判断したトランスのあり方によって、次のようにまとめる。以下、文中の(数字)は会話番号を示す。

①四柱を占う場面(1〜14・所用時間10分10秒)

冒頭の四柱を見る占の導入部分では、左手のノートをかきまいては依頼者を正視して語りかける。最後に占を補足するときに見せた穏やかな表情に比べれば、緊張した様子が伺える。語り進むにつれて語勢はまくし立てるような早口になり、依頼者に「姦生八字」と告げる件(14)では興奮して声を荒げた。(3、5)から、夫の両親の生年月を確認するとき、すでに靈感のようなものがあったと読みとれるが、観察から変化は感じられない。その後もノートをみて、時折ふと頭に何か思い浮かべるしぐさを見せた。伝聞の表現が多用されることから神霊との交流を予想できるが、外見からトランスであることを促えることは難しい。

内容的には、夫妻や婚家の問題を祖先の問題として捉える件、夫妻の外国行きを示唆する件、夫の健康など、その後の占い全体を支配する問題点やモチーフが提示され、この段階における神霊との交流が重要であると考えられる。

②巫歌の節にのせて語る場面(15〜18・9分45秒)

巫歌にのせた語りには憑依した祖先が現れる(17)。巫歌に入るときは右手に持った扇をばたつかせる動作がくり返される。巫

歌の最中に見せる、眉間にしわを寄せた表情には緊張が感じられ、顔面の紅潮が認められる。朗々と歌うときに虚ろな目の表情も認められた。巫歌の途中で万神本人の人格がそこに説明を加えるという形で登場するが、このときは瞬時に表情が戻る。発言の内容と巫歌という点からは、神・人の転換が容易に判断できた。

ここでは子孫を見守る祖先の存在が強調された。しかし全体の内容は、冒頭の四柱占いに詳細を加えながら語り直したもので、依頼者に内容を確認させる演劇的場面とも解釈できる。

③憑依した祖先（子供霊）が中心となる場面（19〜86・17分5秒）

客死した祖先（子供霊）を憑依させた場面では、作想的と思えるくらいに裏返った甲高い声となった。顔面は紅潮し緊張が認められる。この祖先の憑依では、前記のインタビュール時の子供神の憑依と酷似する。最初に祖先を憑依させる際は、右手の扇をばたつかせて上方に掲げ、そして首脇につけるしぐさが見られた。その後は語調から元に戻った（53途中〜59）、あるいは再び憑依を受けたと感じられる場面（65・72など）が交錯する。しかし、いずれも神・人の転換を示すような動作は確認できなかった。再び巫歌を交える場面（82）は、冒頭の占い同様に常態との区別は難しい。

後半部の葬門をめぐる語りは、内容から判断して子供霊が憑依したと考えられるが（74）、表情からはむしろ万神自身の語りとも感じられる。また（84）の「アギシ」の件からは子供神（体主神）が登場したのかとも考えられる。最初の転換点では憑依神格の候補が明示されたが、（21・25）、語り進むにつれて、これさえ

も曖昧になった。

語りそのものは①や②の内容をなぞる形で進展する。ただし内容の単なる冗長なくり返しではなく、客死者や葬門という死者をめぐる新しいモチーフが展開される。それまでの問題を指摘するだけの過去指向の語りではなく、解決を目指した未来指向の語りへと変化する。

④占床を片つけて占を補足する場面（87〜104・3分20秒）

万神の和らいだ表情と穏やかな語り口から、基本的には常態に近い状態に戻ったと判断できる。インタビュールの時に、この万神は占いをして5〜10日ぐらいいは記憶があり、その後は次第に忘れてゆくと述べた。この話を踏まえれば、ここはそれまでの占いの余韻のなかにいると想定できる。しかし万神が自身の言葉で解説するだけではなく、靈感のような認識に従って新しい話題を提出していることから（97）全くの常態とは言えない。

この万神は体主神を呼び出した場合、そのときの様子の7割は忘れてしまうのだという。どの程度の時間で忘却が訪れるのかは調査落ちで確認していないが、この話から神霊の性格によってトランスの様に差があることが予想される。また占を可能とする能力は万神に憑依する様々な神霊がもたらすが、余計なことを言わず考えぬようにするとイメージが頭に浮かぶ、胸の深くに考えが浮かぶとも述べた。事例の占を通して見る万神のトランスは、必ずしも明確な転換点毎に切り替わるものではない。これらをおわせると、クッのように神・人の転換点に明確な儀礼的な所作をおくものだけが巫堂のトランスではなく、むしろこれを曖昧

かつ連続した意識として捉える視点も重要なのではないかと、現在のところ我々は考えるのである。

(注)

- 1 韓国の巫俗の中でシャーマン的な活動をする人々は、降神巫と世襲巫に大別される。本稿で扱ったような巫堂は降神巫に分類されるが、これらの概念について共著者の一人である藤崎が本誌10号に掲載の論文に略述しており(cf. 藤崎一九九二「身体と社会」『フォーラム』10号)、ここでは触れない。
- 2 巫堂は、クツの最中にも進行中の儀礼に対する神の評価を問うための占いなどを行う。本稿におけるクツと占の区分はあくまでも便宜的なものである。
- 3 cf. Y. S. Kim Harvey, 1979 *Six Korean Women*, West Publishing Co. I. Kendall, 1985 *Shamans, Housewives, and Other Restless Spirits*, University of Hawaii Press, item, 1988 *The Life and Hard Times of a Korean Shaman*, University of Hawaii Press. など。
- 4 降神巫の中には、ネリム・クツと呼ばれる成巫のためのインシエーション儀礼を行っていない者も少なくない。ソウル市近郊には、現実にはネリム・クツを行う可能性のない者も含めて、将来のネリム・クツに備える巫堂見習いのような占專業の降神巫が数多い。我々が調査した者の中にも、このような降神巫が含まれていた。ネリム・クツの有無を巫堂の基準とするとき、このような降神巫を占匠(チョムジェンイ)と呼ぶ。この点については、韓国の降神巫について調査研究

を継続している安田ひろみ氏(明治大学大学院)から示唆を得た。

- 5 ㉓徐廷範一九八〇『韓国のシャーマニズム』同朋社。
- 6 一連の調査では、数名の巫堂の自発的なトランス表現を観察及び記録することができた。インタビュウ中に観察された巫堂の自然な感じのトランス事例については、本稿の事例におけるトランスと併せて、第47回日本人類学会・日本民族学会連合大会(一九九三、於立教大学)で口頭発表を行っている。インタビュウ場面でのトランス事例については、別個の報告を準備中である。
- 7 「巫堂」という呼称には、これを軽蔑するような感情が込められる場合が多い。特定の巫堂を呼ぶときは「万神」という呼称を用いるのが一般的である。本文では、今回の事例の女性に言及する場合に「万神」と記した。「巫堂」という記述も、従来の慣例に従って研究上の総称として用いた。
- 8 大きな中庭を持つ韓式の旧家で、その一部屋に祭壇が設置してある。
- 9 この万神も含めて、多くの巫堂の家には寺院を表す「卍」の旗が揚げられ、法堂(ポプダン)と呼ばれる。また仏教的色彩を嫌う場合は神堂(シンダン)とすることもある。
- 10 首にかける直径30 cm程の百八念珠と、手に持って数え回す拳大の九つの玉を結んだ直径15 cm程の念珠。
- 11 巫堂の「寺」に通い修行することを「山に行く」などと表現することがある。近郊の山岳地には巫堂の寺院や修業場が数多い。

12 または「七星堂」、七元星君を体主神として祀る祀堂。この万神の寺も「七星」の名を冠している。

13 この後、夫妻は何度か中国を訪問し、現在は中国に居を構えている。

14 一般には契約書類等をさす言葉だが、巫堂は「良いことがあること」「運」という意味で使う。

15 依頼者の夫は、確かに肥っていた。

16 カメラマンである依頼者の夫は時折、万神にカメラを向けていた。

17 三神は妊娠・出産・育児を司る神で「産神」と表記されることが多い。

18 悲哀とも重なる挫折した感情を示す言葉で、韓国文化のキーワードの一つ。

19 「運の中の運」という強調表現。

20 万神の体主神でもある子供神と区別するために、浮かべられぬ客死者ということで子供霊と表記した。

21 オンマ。子供が母親を呼ぶときの表現で「お母ちゃん」と訳出。オッパはお兄ちゃん、アッパはお父ちゃんとした。

22 韓国には、子供の無病息災を祈って巫堂などと儀礼的な養子関係を結ぶ習俗がある。

23 アヤヤー。痛いの幼児表現。

24 依頼者は翌年春、確かに男の子を出産した。

25 韓国の仏教では一般に犬を食べることは卑しむべきものとされる。

26 韓国の伝統的な結婚式の衣裳。

27 「主体性がなく、他人の話に振り回される」という意の慣用表現。

28 この万神は「接触する、頭に思いが浮かぶ」という意味の言葉を使った。

29 物語に節をつけて歌う民俗芸能。歌手は身ぶりを交えて緩急さまざまな節にのせて詞を歌い、合間に語りを來む。

30 他の巫堂の祭壇と比較して特記すべき点は、我々は気付かなかった。

31 巫堂に憑依して靈力の源となる神霊を指し、複数の神霊が体主神となる場合が多い。

32 「男児3人と女兒1人」「三歳ぐらいの子供と生まれて百日もたない幼児」と万神は述べたが、性と年令の対応は確認していない。

33 著者たちは、依頼者夫妻に対する万神の占が、かなり「当たっていた」という感想を持っている。これは依頼者夫妻も認めている。

(ふじさき やすひこ・跡見学園女子大学/り びよんなむ・同志社大学大学院/もり まさふみ・立教大学大学院)